

平成24年度 事業計画

〔基本方針〕

社会情勢の変化などにより社会福祉の役割は、従来の少子高齢化や過疎化への対策に加え、近年、更生保護や離職者の就業支援などのニーズも増加しており、ますます複雑多様化してきています。また、平成23年に起こった東日本大震災や台風12号豪雨により災害に対する住民の意識と不安が高まる中、地域の住民全てが安心して暮らしていくためには、今まで以上に『地域福祉』の充実が急務となってきています。

社会福祉協議会は、これからの新しい地域福祉の推進の中核となる組織として、また、住民主体となる組織として、従来のボランティア活動だけではなく、市民活動など幅広い支援体制の充実とネットワーク作りを進めていきます。

御浜町社会福祉協議会は、これからも地域福祉を推進する団体であるために、個々の専門性をより高め、時代にあった活動方策の見直しと充実を進めていきます。公益・収益事業につきましては、今年度の介護保険制度の改正に対して、収益を確保しながらも、全事業が一体となって利用者本位の質の高いサービスを提供し、幅の広い生活支援がおこなえるよう努めてまいります。

また、より安定した事業展開を目指して、役職員が一体となって今まで以上に健全かつ効率的な組織運営に取り組む必要があります。

平成24年度は、社会福祉協議会が「地域福祉の時代」にふさわしい民間組織となるよう、基本理念である「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を掲げ、4つの推進目標である

1. 組織体制の強化と各種事業の健全運営を図る
2. 住民参加と協働による福祉社会の実現を目指す
3. 地域住民を視点においた総合的な支援体制を充実する
4. 多様で柔軟な福祉サービスの提供を目指す

に即した各種事業を、地域住民をはじめ、さまざまな機関・団体等と協働しながら、次の御浜町社会福祉協議会事業体系に基づき実施してまいります。

【 事業体系 】

組織の充実強化、法人の健全な運営への取り組み

- 理事会の機能・役割の強化
- 各種委員会の運営と業務改善の推進
- 労務管理・会計実務等の充実
- 各種リスクマネジメント対策の推進
- 職員の資質向上研修会の開催
- 社協会員の募集
- 自主財源の充実
- 市町社会福祉協議会間の連携強化
- 行政等関係機関・団体との連携強化
- 災害時に関する研究と協議

ボランティアセンターの充実に向けた取り組み

- ボランティア・市民活動センターへの移行
- 災害ボランティアセンターの研究と準備
- ボランティアコーディネーター資質の向上
- ボランティア育成事業の実施
- 学童生徒ボランティア啓発事業の実施
- てんとうむしの発行

地域内の福祉活動支援と地域福祉教育への取り組み

- ふれあい配食サービスの実施
- ふれあいサロンの開催
- 子育てサロンの開催
- 小地域たまり場事業の実施
- モデル地域での総合的な地域福祉活動事業の展開
- ささえあいサービス事業の実施
- みはまっこ体験クラブの実施
- 福祉意識啓発事業の実施
- 地域福祉教育推進事業の実施
- 高齢者見守り活動の推進
- 防災・災害救援に関する事業の実施
- 社協だより等広報活動の推進
- 民生委員児童委員協議会との協働活動の推進
- 地域福祉推進を目的とする関係機関・団体との協働活動の推進

地域内の相談支援と生活支援への取り組み

- ふれまち総合相談事業の実施
- 地域福祉権利擁護事業の実施
- あんしん訪問相談事業の実施
- 福祉有償運送サービスの実施
- 当事者及び当事者組織に対する支援の実施
- 生活福祉資金等の貸付
- 在宅介護支援事業の実施

在宅における各種介護サービス提供への取り組み

- 介護保険・居宅介護支援事業の実施
- 介護保険・訪問介護事業の実施
- 介護保険・通所介護事業の実施
- 介護保険・神木ほのぼの館デイサービス事業の実施
- 介護保険・訪問入浴事業の実施
- 自立支援法・居宅介護事業の実施
- 自立支援法・障がい者デイサービス事業の実施
- いきいきデイサービス事業の実施

その他の取り組み

- 関係団体等の事務局業務の実施
- 福祉団体等に対する協力
- 共同募金等各種募金活動の展開

◆組織の充実強化、法人の健全な運営への取り組み◆

項 目	事 業 内 容	備 考
1. 理事会の機能・役割の強化	理事会を年4回以上開催し、執行機関として予算、決算、事業計画、事業報告、定款規程等の制定・改正、運営・経営に関する事等、重要事項を協議決定する。	
2. 各種委員会の運営と業務改善への取り組み	社協内に役職員による各種委員会を設置し、事業経営及び福祉事業に必要な事項について研究協議又は審議することにより健全な運営を図る。 ○総務委員会（年2～4回） ○貸付審査委員会（必要時開催）	
3. 労務管理・会計実務等の充実	時代に即した事業運営を目指すためには、適正な労務管理・雇用管理・会計管理の実施は必須である。それぞれの事項について研修を受けながら充実を図る。また、平成25年度から新会計基準に移行できるように十分な知識を身につけ、準備を行う。	
4. 各種リスクマネジメント対策の推進	苦情解決のシステムの構築、第三者委員の設置、福祉サービス情報公表の実施、介護事故や災害時の対応等、法人運営に関して発生する様々なリスクに対して、適切な対応が図れるよう各種研修会への参加を図る。 ○第三者委員 上ミ地 祥 浩 氏 下 田 鈴 氏	
5. 職員の資質向上研修会の開催	各職員の資質を高めるとともに社協サービスの向上を目的として、研修体系にもとづき専門的な研修の機会を設ける。 ○介護サービスに関する知識技術に関する研修 ○職員の倫理意識・接遇技術に関する研修 ほか	
6. 社協会員の募集	平成24年度分の会費徴収を職員が中心となり実施する。 (徴収時期：平成24年2月～3月) ○一般会員 1,000円（1口あたり） ○法人会員 3,000円（1口あたり）	
7. 自主財源の充実	財政状況が厳しい中、社協の自主財源確保は重要課題である。地域福祉推進の事業費となる社協会費、寄付金、共同募金についてはもちろんのこと、新たな収益事業の開拓や助成金についても積極的に取り組む。 ○社会福祉基金 ○社協基盤整備積立金 ほか	

項 目	事 業 内 容	備 考
8. 市町社会福祉協議会間の連携強化	<p>三重県下又は紀南地域（熊野市～串本町）における社会福祉協議会同士が積極的に情報交換等をおこなうことで健全な法人運営や社協事業の充実を図る。特に熊野市・紀宝町の各社協とは密接な連携をとり広域を意識した各種会議や研修会を開催していく。</p> <p>○三重県社会福祉協議会主催の各種会議・研修会 ○紀南地域社会福祉協議会連絡会議 ○熊野市・紀宝町・御浜町社会福祉協議会連絡会議ほか</p>	
9. 行政等関係機関・団体との連携強化	<p>御浜町地域福祉（活動）計画において、行政・社協・住民の役割が明記されているように、今後の社協の地域福祉事業を充実させるためには、財政面も含め行政等の理解と支援が必要となる。また事業実施にあたっては多様な関係機関・団体との連携が必要でありその強化に努める。</p>	
10. 災害時に関する研究と協議	<p>災害時に社協としてどのような事業展開や一躍を担えるかを協議する。また、行政等とも協議を行い、役割分担を行う。</p>	

◆ボランティアセンターの充実に向けた取り組み◆

項 目	事 業 内 容	備 考
1. ボランティア市民活動センターへの移行	<p>近年、ボランティア活動範囲の拡大や NPO・市民活動との連携も必要となっており、ボランティアセンターの担う役割範囲はますます拡大となっている。今年度はボランティア・市民活動センターへの移行を前提とし、各種団体と協議を進める。</p> <p>また、ボランティアセンターを多くの団体に活用していただけるよう、呼びかけと設備や器具等の充実を行う</p>	
2. 災害ボランティアセンターの準備	<p>災害時に行政が「災害ボランティアセンター」を立ち上げ、運営については、社協が大きな役割を果たすが、行政と今まで以上に協議を行い、大災害時でも円滑な運営ができるようセンター機能の強化を図る。</p> <p>また、一般住民を対象に災害ボランティアコーディネーターの育成も進める。</p>	
3. ボランティアコーディネーター資質の向上	<p>ボランティアに関する担当職員としてボランティアコーディネーター（通称：ボラコ）を設置している。</p> <p>コーディネート業務にはケースワークとグループワーク等の相談援助技術や知識が必要であるため、三重県社会福祉協議会主催の専門研修への参加や、県や近隣ボラコとの会議への参加を通じて資質向上に努める。</p> <p>○ボランティアコーディネーター（1名）</p>	

項 目	事 業 内 容	備 考
4. ボランティア育成事業の実施	<p>ボランティアの発掘育成は、福祉に関する意識啓発、住民参加による福祉活動など「ふくしの町づくり」のために重要な事業に位置づけられる。</p> <p>既存のボランティア（福祉）講座以外に新しい担い手獲得の可能性を考え、趣味や生きがいをテーマとする福祉色の強くない講座等も開催し、気軽に参加できる機会も提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生ボランティア講座（年1回） ○しゅみ活動講座（年4回） ○子育てボランティア講座（年1回） ○夏休み親子手話教室（年1回・手話サークルへ依頼） ○入門手話講座（年1回・手話サークルへ依頼） ○ボランティア活動のニーズに即した講座（随時） 	
5. 学童生徒ボランティア啓発事業の実施	<p>町内の学校と連携し、学校における学童生徒の福祉教育、福祉啓発を目的として町社協が指定し助成をする。</p> <p>また各学校の授業上での福祉体験等の依頼を受け、福祉健康センター又は必要に応じて学校での出前福祉講座等を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア協力校（各3万円助成） ○福祉教育推進校（1事業につき1万円助成、最高5万円まで助成） ○各学校での出前福祉講座（適時） ○町福祉健康センターでの福祉講座（適時） 	
6. てんとうむしの発行	<p>ボランティア情報誌「てんとうむし」として、ボランティア登録会員宛のダイレクトメールとして発行する。（年1～2回）</p>	

◆地域内の福祉活動支援と地域福祉教育への取り組み◆

項 目	事 業 内 容	備 考
1. ふれあい配食サービスの実施 （行政補助事業）	<p>地域の一人暮らし等の高齢者に対して、同じ地域のボランティアによる調理・配食を通じ、ふれあい訪問型の配食サービス活動が展開されている。今年度も全地区（6地区）で展開する。なお、上市木地区については、担い手の不足が生じており、現状に即した活動ができるようボランティアや地域と協議を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上市木地区 ○志原地区 ○阿田和地区 ○下市木地区 ○神木地区 ○尾呂志地区 	

項 目	事 業 内 容	備 考
2. ふれあいサロンの開催 〈行政補助事業〉	<p>小地域における高齢者を中心として、生きがい健康づくり、社会参加を目的とした「ふれあいサロン」（1回あたり2～3時間程度・10地区で開催）を開催する。</p> <p>平成24年度は、土日の開催など幅広く地域の方が参加できるサロンについても検討していく。</p> <p>○神木 ○尾呂志 ○阿田和上地 ○上市木 ○志原 ○阿田和A ○阿田和山地 ○下市木 ○引作・柿原 ○萩内団地</p>	
3. 子育てサロンの開催	<p>保護者やボランティア、子育てサロン支援協力者が一緒になって、保護者同士の交流やリフレッシュできる場として「ちびっこランド」を開催する。</p> <p>○ちびっこランド志原(毎月1回) ○ちびっこランド市木(毎月1回)</p>	
4. 小地域たまり場事業の実施	<p>地域の福祉拠点（神木ほのぼの館）を開放し、地域福祉の観点から児童から高齢者が気軽に集まれスペース（たまり場）を確保し、ボランティアの協力を得ながら地域内のコミュニティの形成を図る。</p> <p>○よりみち広場（毎週火・木曜日 午後開催）</p>	
5. モデル地域での総合的な地域福祉活動事業の展開	<p>神木を引き続きモデル地域として、地域課題や不安を解消していくために、住民の方や団体の方と協議を進め、地域独自の幅の広い総合的な地域福祉活動の展開を行う。</p> <p>また、神木ほのぼの館が地域に根差した拠点となるよう、活用方法についても併せて検討していく。</p>	
6. ささえあいサービス事業の実施	<p>利用者及び提供者が相互に会員となり、心身が不自由なため自分ではできない生活上の家事（掃除や買物等）や要介護者の見守りなどの行為を有償による支援活動を通じて支え合うことで社会的に弱い立場の方々の在宅生活を支援する。</p> <p>平成24年度は提供会員の確保に努める。</p> <p>○利用会員（56名）、提供会員（11名）</p>	
7. みはまっこ体験クラブの実施	<p>町教育委員会やボランティアとの協働で、子どもたちがさまざまな体験活動ができる場と気軽に安心して集える場（たまり場）作りとして開催する。また、新しい人間関係や仲間づくり、地域の様々な世代の方々とのふれあい通じて、子どもたち自身が地域を理解し、活動する自覚や能力を育成する。年間8講座程度を予定。</p> <p>(予定)</p> <p>○ガラス細工講座 ○野菜作り ○科学教室 ○スプリンター講座 ○しめ縄作り講座 ○もちつき ○犬とふれあおう ○囲碁教室</p>	

項 目	事 業 内 容	備 考
8. 福祉意識啓発事業の実施	<p>住民の福祉意識の啓発については、不断なく継続して実施することが大切である。今年度もイベント等を通じて広く福祉に対する理解を深めていただくことを目的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉映画会の上映（年1回） ○あいあいまつりの開催（年1回） 	
9. 地域福祉教育推進事業の実施	<p>小地域を対象とする福祉教育を実施し、福祉に対する関心と地域コミュニティの意識啓発を図る。 小地域における世代間交流、児童健全育成、コミュニティ形成を目的とするイベントに対して町社協が指定し助成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉コミュニティ推進事業（地区助成事業） ○地域福祉活動助成事業（小地域助成事業・新規） 	
10. 高齢者見守り活動事業の推進	<p>各地域において認知症や虚弱などにより、近隣住民との関係が希薄となっている高齢者をフォーマルだけではなく、インフォーマルな活動へとつなげていくため、民生委員児童委員や地域ボランティアと連携し、毎月2回定期的に見守りを行う。</p>	
11. 防災・災害救援に関する取り組み	<p>住民による防災活動については、地域内の支援活動との関連性もあり、社協としても行政や民生委員児童委員協議会と協働して災害時における要福祉対象者の安否確認活動と結びつけて、地域に働きかけていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東紀州防災ネットワーク推進会議への参加 ○災害ボランティアセンターに関する会議への参加ほか ○要災害時援護者対策への協力 	
12. 社協だより等広報活動の推進	<p>社協事業の紹介や福祉情報の提供等を通じて、社会福祉協議会及び福祉を理解していただくことを目的として発行する。今年度も事務局で印刷し製本した「社協だより」や情報紙を毎月発行する。 また福祉事業等の開催内容を広く周知してもらうため、地域の各種メディアへの情報提供を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社協だよりの発行（年12回） ○地方新聞社、ZTVへの記事提供等 	
13. 民生委員児童委員協議会との協働活動の推進	<p>地域福祉の推進、住民やボランティアによる町づくりについては、民生委員児童委員、主任児童委員も同じ使命を持って活動されている。社協では、民生委員児童委員協議会と密接な連携をしながら共通の目的達成のために協働して活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○御浜町民生委員児童委員協議会 	

項 目	事 業 内 容	備 考
14. 地域福祉推進を目的とする関係機関・団体との協働活動の推進	地域福祉を推進する上で、行政はもとより様々な機関・団体との連携が求められる。社協の特性を生かし多様な機関・団体との連携を深めるとともに、必要に応じて協働活動を推進する。	

◆地域内の相談支援と生活支援への取り組み◆

項 目	事 業 内 容	備 考
1. ふれまち総合相談事業の実施	<p>社協事務所内へ総合相談窓口を設置し、住民からの相談に応じるとともに、必要に応じて適切な関係機関へつなぐ。</p> <p>携帯電話等の活用など住民が気軽に相談できる体制をつくとともに、行政や専門機関との連携強化を図る。</p> <p>○社協事務所内・総合相談窓口（平日業務時間・土日等は携帯電話にて対応）</p> <p>○神木ほのぼの館内・ふくし相談窓口（月・水・金）</p>	
2. 地域福祉権利擁護事業の実施	<p>認知症のお年寄り、知的又は精神に障がいがある方などで判断能力が十分でない方に対し、福祉サービス利用の手続きや日常的金銭管理及び書類等の預かりサービスなどを行い、その権利を擁護するとともに、在宅における自立生活を支援する。</p> <p>○推進員（正規1名・兼務）</p> <p>○生活支援員（パート3名）</p>	
3. あんしん訪問相談事業の実施	<p>在宅の一人暮らしや虚弱高齢者等のうち地域社会等と関わりを持たず、つながりが希薄となり孤立する世帯に対して、訪問活動員等や職員が定期的に訪問し、社会的孤立感の解消及び地域社会とのつながりづくりを行なうと共に福祉ニーズの早期発見を目的に「あんしん訪問相談事業」を実施する。</p> <p>○あんしん訪問相談員（パート1名）</p> <p>○対象者（6名）</p>	
4. 福祉有償運送サービスの実施	<p>道路運送法にもとづき、要介護状態等の高齢者及び心身の障がいにより、単独では公共交通機関の利用が困難な方に対して、福祉車輛等による有償運送サービスを実施する。</p> <p>○福祉有償車輛（7台保有）</p> <p>○利用会員数（約120名）</p>	

項 目	事 業 内 容	備 考
5. 当事者及び当事者組織に対する支援の実施	<p>障がい者の方々が、自分たちで集まり生きがいや交流を深めるグループに対して、ボランティアとの協働により運営の支援をする。また、在宅の虚弱高齢者や心身障がい者など社会的弱者に対して、ボランティアや民生委員児童委員との協働による支援をおこなうほか、社会参加を図る各種支援事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○あゆみの会（身体障がい者） ○フレンドの会（知的障がい者） ○あくしゅの作成と配布（高齢者・約300部） ○紀南地域生活交流会の開催（知的障がい者） ○声の広報の録音と配布（視覚障がい者等） ○歳末事業（知的障がい者・子育て家族等） 	
6. 生活福祉資金等の貸付	<p>低所得者世帯等を対象として、民生委員児童委員と協働して経済的に困っている方々に対し、各種福祉資金を貸し付けて自立生活の支援をおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活福祉資金（県社協） ○しあわせ金庫（町社協） ○貸付審査委員会（必要時開催） 	
7. 在宅介護支援事業の実施	<p>日頃、在宅で介護されている家族又は要支援・要介護の状態となっている方々に対して、在宅介護負担の軽減を目的に必要な介護機器・福祉車両等の貸出をおこなうとともに、介護者の心身のリフレッシュを図るための事業を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福祉車両の貸出し（原則として無料・要予約） ○在宅福祉機器の貸出し（有料。但し短期間のみ無料） ○寝たきり者等寝具消毒サービス（有料） ○在宅介護者のつどいの開催（年1回） 	

◆在宅における各種介護サービス提供への取り組み◆

項 目	事 業 内 容	備 考
1. (介護保険) 居宅介護支援事業の実施	<p>居宅介護支援事業では、利用者の心身の状況や環境、利用者及び家族の希望等を勘案し、計画に基づく介護サービスの提供が確保されるように支援すると共に、利用者が主体的に介護サービスを選択することで、自分の人生を自分で作っていくという、自立への意欲を大切に支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護支援専門員[ケアマネジャー]（正規3名、臨時・パート2名） ○1月あたりのケアプラン数（130件）を目指す。 	

項 目	事 業 内 容	備 考
2. (介護保険) 訪問介護事業の実施	<p>訪問介護事業では、個人の価値観とそれまでの生活を尊重し理解することで、その人らしい自立した生活を送ることができるように支援します。</p> <p>専門的な知識や技術を持って関わることで、利用者一人ひとりの残存能力を生かし、意欲を引き出す支援をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サービス提供責任者（3名） ○訪問介護員[登録ヘルパー含む]（23名） ○介護福祉士資格取得率の30%以上を維持 ○1月あたりの延べ訪問回数（1,068回）を目指す。 	
3. (介護保険) 通所介護事業の実施	<p>通所介護事業では、利用者の社会的孤立感の解消と、心身機能の維持、向上を図ることで、健全で安定した生活が送れるように支援します。</p> <p>その家族の身体的、精神的負担を軽減できるよう、個別のニーズに合わせた技術提供と、利用者、家族から喜ばれる柔軟なサービス提供を目指します。</p> <p>なお、平成24年度からサービス時間を1時間延長する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活相談員（1名）・看護職員（1～2名）・介護職員（7～10名）・調理師（2～3名）等、利用者状況により適正な人員配置を図る。 ○1日あたりの平均利用者数（22名）を目指す。 	
4. (介護保険) 神木ほのぼの館デイサービス事業の実施	<p>神木ほのぼの館デイサービス事業では、自立した生活を送ることができるよう介護予防を重視した支援を行い、生活意欲や身体機能の維持と向上を図ります。</p> <p>地域住民やボランティアの関わりを大切にしながらサービスを提供し、利用者の尊厳を保持すると共に、温もりのある時間を過ごせるよう支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎週：月曜日・水曜日・金曜日 ○生活相談員（1名）・看護職員（1名）・介護職員（2名）調理師（2名）を配置 ○1日あたりの平均利用者数（11名）を目指す。 	
5. (介護保険) 訪問入浴事業の実施	<p>訪問入浴事業では、利用者の身体の清潔保持と心身機能の維持を図ることができるように、安全で快適な入浴を支援します。</p> <p>家族とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築けるよう専門的知識と技術の提供に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎週：月曜日・火曜日・木曜日 ○看護職員（1名）・介護職員（2名）を配置 ○週あたりの平均利用者数（10名）を目指す。 	

項 目	事 業 内 容	備 考
6. (自立支援法) 居宅介護事業の実施	<p>知的・精神・身体障がい者・児童居宅介護（ホームヘルプ）事業では、在宅で自立生活をおくることができるよう適切な家事・介護・相談・外出支援等の各種サービスを提供します。社会との関わりや個々のニーズを大切にし、専門知識の習得及び技術の向上を図るため職員研修に積極的に参加します。</p> <p>○サービス提供責任者（1名・兼務） ○訪問介護員〔登録ヘルパー含む〕（23名・兼務） ○1月あたりの延べ訪問回数（30回）を目指す。</p>	
7. 障がい者デイサービス事業（日中一時支援事業）の実施	<p>障がい者デイサービス事業では、利用者一人ひとりの個性を尊重し、社会と関わりを持てる行事を通じて充実感・達成感を感じていただけるよう支援します。</p> <p>○毎週：木曜日 ○生活指導員（1名）・看護職員（1名）・介護職員（1～2名）を配置 ○1日あたりの平均利用人数（5名）を目指す。</p> <p>※その他、障害者自立支援法基準該当生活介護により、介護保険通所介護事業での受け入れを行う。</p>	
8. いきいきデイサービス事業の実施 〈行政受託事業〉	<p>いきいきデイサービス事業では、虚弱高齢者を中心に要介護状態にならないよう生きがいと健康づくりを目的としてサービスを提供します。</p> <p>○町内を10地区に分け月1回 ○生活相談員（1名）・看護職員（1名）・介護職員（1名）を状況に応じて配置</p>	

◆その他の取り組み◆

項 目	事 業 内 容	備 考
1. 関係団体等の事務局業務の実施	<p>福祉関係の任意グループや団体等の事務局を持ち、運営に関する支援と協働活動をおこなう。</p> <p>○御浜町民生委員児童委員協議会 ○御浜町共同募金委員会 ○御浜町ボランティア連絡協議会</p>	

項 目	事 業 内 容	備 考
2. 福祉団体等に対する協力	<p>町内にある自主運営をおこなっている福祉系サークル又は団体等に対して必要に応じて協力をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○御浜町福祉団体連絡協議会 ○手話サークル・オレンジ 	
3. 共同募金等各種募金活動の展開	<p>赤い羽根・共同募金運動をはじめとする公共性が高い各種募金活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共同募金運動・歳末助け合い運動 ○善意の箱（設置募金） ○国内外の災害義援金（必要時） ○三重県ボランティア基金募金 ほか 	